

第2学年 英語科学習指導案

日 時 令和3年11月16日(火) 3校時
会 場 盛岡市立洪民中学校
学 級 2年A組 男子15名 女子10名 計25名
授業者 教諭 中坂 明子

1 単元名 PROGRAM 7 A Gateway to Japan (SUNSHINE ENGLISH COURSE2 開隆堂)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、中学校学習指導要領外国語編「(2) 読むこと イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。」を足掛かりに「(3) 話すこと (やりとり) イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。」を統合的に学習できる単元と捉える。

本単元の題材は、日本のポップカルチャーについてである。「寿司」「着物」「マンガ」「アニメ」といった日本独自の言葉が世界で使われるようになってきており、海外で有名になった作品がきっかけで日本文化や日本語に興味をもつ外国人も少なくない。今や日本のポップカルチャーは等身大の現代日本を伝えるためのツールの一つであり、日本と世界の橋渡しの役割をもつようになりつつあることに気付かせ、生徒自身が考える日本の良さを発信することにつながる教材である。

(2) 生徒について

(略)

(3) 指導について

本単元の終末に、ALT が知らない日本文化や日本の物を ALT に紹介する活動を設ける。単元の導入では、「とびら」のページを用いて、日本のポップカルチャーについて触れた後、ALT が知っている日本文化や日本の物についての話を聞き取る場面を設定する。そして、ここで聞き取った情報を用いて、ペア活動等を通して本文を読み取り、自分が理解できたことを自分の言葉で伝える活動を通して、ALT に自分の考えや気持ちを伝えられるよう仕組んでいきたい。

言語材料は現在完了形(完了用法、経験用法)を学習する。既習表現も使いながら、具体的に日本文化や日本の物について説明できるようにしていきたい。また、単元の中盤においては、単元の最終ゴールとして設定する **Interact** に向け、**Think** のページで読み取れたことを自分の言葉でまとめる活動を帯活動として毎時行っている。

本時の展開では、日本のポップカルチャーが世界にどのように影響しているかについて読み取りを行う。写真を使って教師によるモデル **Retelling** を聞いたり、**Q&A** を用いて内容理解を促したりして、十分な音読練習を行わせ、説明に必要な表現を自己決定させる場面を作りたい。単語レベルの理解が難しい生徒もいるため、「写真」や「キーワード」等、自分で手がかりを決め、日本のアニメと世界とのつながりについて説明する活動を行い、自分の言葉で表現させていく。ペアや学級の仲間の説明を聞きながら、**Retelling** 活動を反復する中で言葉を推敲させていきたい。

3 目標及び評価規準

(1) 単元の目標

ビクター先生に自分のお気に入りの日本文化や日本の物を知ってもらうために、日本文化が海外に与えた影響について書かれた対話文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文を引用しながら伝えることができる。

(2) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと[やりとり]	<p><知識> 現在完了形を用いた文の構造を理解している。</p> <p><技能> 伝えたい日本文化や日本の物について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、現在完了形などの文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。</p>	<p>相手に自分のお気に入りの日本文化や日本の物について紹介するために、日本の文化について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。</p>	<p>相手に自分のお気に入りの日本文化や日本の物について紹介するために、日本の文化について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。</p>

4. 指導と評価の計画

時間	■：ねらい ○：主な言語活動等	知	思	態	備考
1	<p>【とびら】【Think1】</p> <p>■ビクター先生に自分のお気に入りの日本文化や日本の物を知ってもらうために、ビクター先生がどれくらい日本について知っているかを聞き取ることができる。</p> <p>○海外で人気の日本文化や日本の物を生徒に予想させ、【Think1】の導入につなげる。日本独自の言葉が海外でも使用されていることを理解することができる。</p> <p>○教科書本文を読み、登場人物が好きな物が何か等について読み取ることができる。</p> <p>(Retell 1・1回目)</p>	<p>生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないようにする。</p> <p>記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動状況を確実に見届けて指導に</p>			・ワークシート
2 3	<p>【Scenes1・2】(Retell 1・2回目)</p> <p>■現在完了形のイメージを捉えることができる。</p> <p>■イラストや短い英文を読み、現在完了形等を用いて状況を説明することができる。</p> <p>○現在完了形(完了用法)を用いた文の意味や働きを理解する。</p> <p>○【Think1】の本文を自分の言葉でペアに伝える。</p>				・ワークシート
4 本時	<p>【Think2】(Retell 1・3回目)</p> <p>■ダニエルになったつもりで、宿題のスピーチを作ってみよう。</p> <p>○教科書本文を読んで、書き手の最も伝えたいことを捉える。</p> <p>○本文を自分の言葉でペアに伝える</p> <p>(Retell 2・1回目)。</p>				・ワークシート
5	<p>【Scenes3】(Retell 1・4回目)(Retell 2・2回目)</p> <p>■現在完了形(継続用法)を用いて、クラスメイトにこれまでの経験をインタビューすることができる。</p> <p>○1時間目に見せた、ALTとJTEの対話(動画)を聞いて、現在完了形(経験用法)の意味や働きを理解する。</p>				・ワークシート ・観察 (スピーキングテスト)

時間	■：ねらい ○：主な言語活動等	知	思	態	備考
	○インタビューを通して、日本の文化を紹介する英文について考えることができる。	記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないようにする。			
6	【Think3】 (Retell 2・3回目) ■日本文化が海外に与えた影響についての本文を読み、概要を捉えることができる。 ○教科書本文を読んで、書き手の最も伝えたいことを捉える。 ○【Think3】 本文を自分の言葉でペアに伝える。 (Retell 3・1回目)				・ワークシート
7	【Retell】 【Interact】 (Retell 3・2回目) ■ビクター先生に、現在完了形（経験）の文を用いて、自分が紹介したい日本文化や日本の物について知っているか尋ねることができる。 ■これまでに読み取った本文の内容を参考にし、紹介したい日本文化・日本の物についてまとめることができる。 ○ペアになり、相手をALTとみ立てて、教科書本文について絵等を使いながら説明する。				・動画撮影 (1回目)
8	■ビクター先生に日本文化や日本の物について紹介しよう。	○	○	○	・パフォーマンス テスト
後日	ペーパーテスト	○			

5 本時について

(1) 本時の目標

ダニエルになったつもりで、宿題のスピーチを作ってみよう。

(2) 本時の展開

段階	学習活動及び学習内容	指導上の留意点(・)評価(☆)	備考
導入 8分	1 あいさつ	・挨拶をする。	・英語を授業で使おうとする姿勢を作る。
	2 帯活動	・新出語句の意味や発音の確認。 ・並べ替え問題。	
	3 前時の復習①	・1時限目に見せた、ALTとJTEとの会話(動画)を見せ、ALTが既に知っている日本の物について、想起させる。	・単元のゴールを意識させるとともに、既習事項の復習を行う。 形成的評価
	4 前時の復習②	☆前時に学習した【Think1】についてのRetelling(3回目)をペアで行う。(☆観察)	
ダニエルになったつもりで、宿題のスピーチを作ってみよう。			
展開 37分	5 Listening	・教師によるRetellingを聞き、本文の内容を理解する。(＊日本語でペアと内容の確認)	・教師は写真を用いて本文のRetellingを行う。 ・本文はまだ見せない。
	6 Q&A	・Q&Aプリントを見ながら、本文(デジタル教科書)の音声を聞かせる。 ・教科書を開本させ、Q&Aの根拠となる部分に下線を引く。	

	7 音読練習	<ul style="list-style-type: none"> 自分がどこに線を引いたか、ペアで確認する。 線を引いたところを全体で確認する。 本文にスラッシュをつけ、意味のまとまりを意識して読む。 ペアでスラッシュごとに読む。 ペアで役ごとに読む。 個人で本文を読む。(3分) 	<ul style="list-style-type: none"> テンポよく進める 机間巡視 教師による
	8 ダニエルになったつもりで説明する。	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を参考に、本文の Retelling の練習を個人で行う。(☆観察) 	Retelling で使用した写真をプリントにも載せる。 形成的評価
	9 Retelling (1回目)	<ul style="list-style-type: none"> 横のペアに Retelling をする。(☆観察) 数ペアを指名し、参考にする。 横ペアと表現を再度検討する。 縦ペアに Retelling をする。 	
終末 5分	10 自己評価カード記入	自己評価カードに、本時の発見や課題、次回 の目標等を書かせる。	

(3) 板書計画

<p>Tuesday, November 16th, sunny</p> <p>ビクター先生に自分のお気に入りの日本文化・日本の物を知ってもらうために、日本文化が海外に影響を与えた対話文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文を引用しながら伝えることができる。</p>		<p>スクリーン デジタル教科書 本文のページ 写真の提示</p>			
<p>Goal : ダニエルになったつもりで、宿題のスピーチを作ってみよう。</p> <p>Schedule</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> Review1 <input type="checkbox"/> Review2 <input type="checkbox"/> Listen <input type="checkbox"/> Q&A <input type="checkbox"/> 音読練習 <input type="checkbox"/> Retelling (1回目) 	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>誰が 何が</td> <td>どうする いる</td> <td>何を 誰を 誰に</td> <td>どのように、 どこで いつ</td> </tr> </table>		誰が 何が	どうする いる	何を 誰を 誰に
誰が 何が	どうする いる	何を 誰を 誰に	どのように、 どこで いつ		